



建設機械の歴史は、キャタピラーとともに始まりました。1904年にホルト社が史上初の履带式トラックを製造し、その後1925年にCaterpillar Tractor Co.を設立。以来95年にわたり、世界最大の建設機械メーカーとして多種多様な製品を世に送り出し、エンジン・発電機などパワーシステムのリーディングサプライヤーとして社会の発展に大きく貢献してきました。日本においては、1960年に油圧ショベルを初めて国産化した三菱重工業（明石製作所）と合弁関係を結び、1963年より事業を開始。

キャタピラーグループの重要拠点として、主力製品である油圧ショベルの開発・生産をリードし、時代の先端を行く製品と技術を世界に発信しています。

日本の“ものづくり”の力を活かし、卓越した製品と技術を世界へ

国内で販売する全てのCAT製品のマーケティング機能と小型製品の開発拠点である「横浜オフィス（本社）」、CAT油圧ショベルの世界唯一の開発拠点「油圧ショベル開発本部（HEDC）」。
そして、30万台以上の累計生産台数を誇るマザープラントである「明石事業所」。
 日本においてキャタピラーは、小型製品の開発、油圧ショベルの開発・生産拠点を構え、国内サプライヤーと一体となったモノづくりを通して、世界100か国以上へ製品・技術を送り出しています。



- キャタピラー社が世界に展開する8か所の小型製品拠点の中で最重要拠点として、ミニ・小型系の油圧ショベルやホイールローダ、スキッドステアローダなどを企画・設計・開発
- 油圧ショベルの心臓部ともいえるコントロールバルブなどの主要コンポーネントから骨格を構成する板金構造物等も自社生産するとともに、日本のサプライヤー企業約200社とパートナーシップを構築し、油圧ショベルを一貫生産
- ものづくりを通して地域社会との絆を深め、日本の産業発展に貢献

■ 主な国内拠点

横浜オフィス（本社）

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-7-1

OCEAN GATE MINATO MIRAI 12階 Tel (045)682-3800

明石事業所/油圧ショベル開発本部

〒674-0074 兵庫県明石市魚住町清水1106-4 Tel(078)943-2911

■ 主な販売・レンタル網

日本キャタピラー合同会社 四国機器株式会社

四国建販株式会社 キャタピラー九州株式会社

■ 創立 1963年（昭和38年）11月4日

■ 代表執行役員 本田 博人、Justin Speichinger、田中美紀、豊浦信海、比留間 茂

■ 日本におけるキャタピラーの歴史

1963 キャタピラー三菱設立

1965 CAT D4Dブルドーザ国産第一号機完成

1986 新キャタピラー三菱発足に先立ち、油圧ショベル開発センターを開設

1987 キャタピラー三菱、明石製作所の後身と合併し、新キャタピラー三菱としてスタート

1990 相模・明石両事業所を設立

1992 世界統一仕様のCAT300ファミリー油圧ショベル「REGA」シリーズを発表

2008 キャタピラージャパンに社名変更

2012 キャタピラー社がキャタピラージャパンを単独所有

2017 デジタル接続を標準搭載した業界初の次世代油圧ショベルを明石より出荷

■ キャタピラー概要(2023年)

連結売上高	\$67.1B	販売店数	156
米国以外の売上比率	54%	ビジネス展開国数	190カ国
グローバル総従業員数	113,200		
世界中で稼働しているマシン数	400万台強		



建設機械



鉱山機械



ディーゼル・
天然ガスエンジン



産業用ガスタービン



ディーゼル
エレクトリック
ロコモティブ